

令和6年産 美里地区の大豆情報



第5号 令和6年11月1日

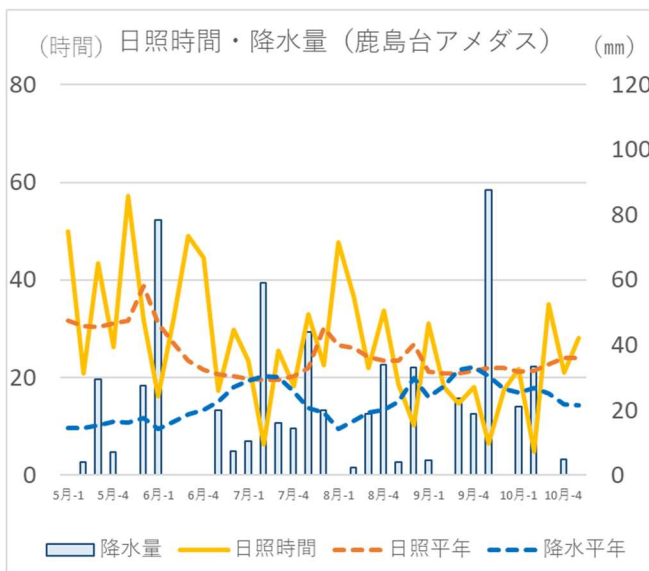
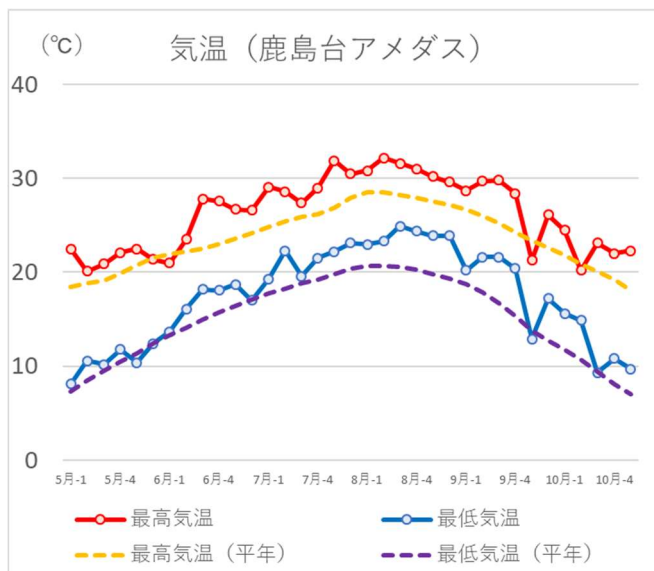
宮城県美里農業改良普及センター

TEL:0229-32-3115

FAX:0229-32-2225

<https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

I 気象経過及び生育概況



- 気温は高温傾向が続いていましたが、9月以降は下回る期間も出ています。
- 日照時間は8月までは平年並みから多照傾向でしたが、9月以降は平年をやや下回っています。
- 降水量については、6月上旬の乾燥(19日連続降水無し)を除いて極端な天候は少なく、6月、7月、9月に60~80mm/日前後のまとまった雨が降りました。

生育調査結果 (調査日: 10月30日)

品種	調査地点	区分	播種日	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	総節数 (節/㎡)	着莢節数 (節/㎡)	有効莢数 (莢/㎡)
タチナガハ	涌谷町岸ヶ森	本年値	6月13日	46.6	12.2	3.1	242.9	154.3	433.3
		前年差	-6日	-9.4	-1.1	0.4	-30.3	-20.9	85.5
	大崎市田尻大沢	本年値	6月8日	87.8	15.6	1.8	191.4	112.1	365.0
		前年差	+8日	27.1	1.3	-1.4	19.5	-16.4	49.6
	大崎市鹿島台木間塚	本年値	7月1日	81.3	14.0	2.8	323.8	199.8	543.4
		前年差	+8日	20.5	-0.2	0.0	53.2	8.4	204.1
ミヤギシロメ	涌谷町岸ヶ森	本年値	6月13日	69.3	14.8	2.8	327.9	203.6	463.9
		前年差	-6日	-15.0	-1.2	0.4	33.5	15.8	148.5
	美里町青生	本年値	6月18日	81.8	14.0	3.3	178.6	113.9	248.9
		前年差	+11日	5.2	1.5	-0.8	-82.5	-43.0	-85.9

- タチナガハのほ場では落葉し成熟期に入ってきていますが、前年よりは少ないものの、青立ち株が散見される状況です。前年の調査結果と比較して、主茎節数と分枝数はほぼ同程度、有効莢数が多めとなっています。
- ミヤギシロメも例年より落葉が早く、成熟期に入りつつあります。前年の生育調査結果と比較して、主茎節数及び分枝数はほぼ同程度、有効莢数は株数(5.6~14.9本/㎡)により幅が見られます。
- 一部のほ場ではアメリカセンダングサやアサガオ類等の雑草が多発しています。

【本年産大豆の生育の特徴】

【標播】

- ・前年の結果を受け、播種作業の日程は例年より遅い6月上旬に始まりました。6月2日のまとまった降雨（60.5 mm）により一部ほ場では滞水が確認されました。6月上旬以降は降雨が観測されない日が続き、播種作業が順調に進んだ半面、ほ場の乾燥が進み、出芽不良が散見されたほか、土壌処理剤の効果を十分に発揮できず、雑草（タデやアサガオ類）が多発したほ場が散見されました。
- ・6月上旬までに播種が行われたほ場では、6月中旬～下旬頃から1回の中耕培土作業が実施されました。
- ・7月は25日に43 mmのまとまった降雨がありましたが、前年のように100 mmを超える極端な降雨は確認されず、7月全体としては降水量及び日照時間も平年並みでした。
- ・8月に入り晴天日が多くなり、日照時間が確保され降水量は平年を下回りましたが、前年のような極端な乾燥状態は継続せず、開花期の水分は概ね確保されました。
- ・タチナガハ、ミヤギシロメともに本年の葉の黄化・落葉が早く、11月中旬から順次成熟期を迎えると見られます。青立ち株は前年より少ないもののタチナガハを中心に確認されています。

【麦後晩播】

- ・麦類の成熟が例年より早く、収穫作業も天候に恵まれ順調に進んだことから、播種作業が順調に進み出芽は概ね良好でした。前年同様、生育期間を通じて高温傾向のため生育量は確保されましたが、ほ場によっては大豆の倒伏や雑草の多発が見られました。

2 今後の管理

(1)排水対策 急な大雨に備えましょう

- ・近年、秋になっても台風の影響があるなど、大雨等の気象災害が多くなっています。降雨後に一日でも早くほ場に入って作業ができるように、排水溝や明きよの点検・整備を実施しておきましょう。

(2)雑草、青立ち株の抜き取り 汚粒発生防止のため収穫前にはほ場をきれいにしましょう

- ・本年は、前年同様高温傾向の上、播種時期に乾燥傾向だったことから土壌処理剤の効果が限定的だったため、ほ場によって残草が多い傾向となっています。茎水分が高く、収穫時の汚粒発生の原因となり易い、アメリカセンダングサやタデ類、シロザ、イヌホオズキ等の雑草は刈り取りまでに抜き取っておきましょう。
- ・大豆の青立ち株（株の大きさに対して莢数が少なく、茎が緑色のままの株）は茎水分が高く、汚粒の原因となりますので、収穫前に必ず抜き取りましょう。
- ・この時期に抜き取りした雑草は、種子を落とした可能性が大きく、次作でも発生の可能性が高いことから、雑草の種類をほ場ごとにメモしておき、今後の雑草防除に役立てましょう。



写真1 アメリカセンダングサ、オオイヌタデ、シロザ、イヌホオズキ
(みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針 より)

ダイズシストセンチュウが管内で確認されています！

- ・ダイズシストセンチュウは根に寄生し、生育不良により減収につながります。
- ・シストは環境耐性が高く、一旦侵入してしまうと根絶は極めて困難です。
- ・農業機械や長靴に付着して侵入することから、疑わしいほ場の収穫作業は最後にする、作業後の清掃を徹底するなど、被害の拡大防止に努めましょう！



写真2 ダイズシストセンチュウの被害の様子
(雪印種苗株式会社「緑肥物語」より引用)

(3) 収穫時期の判定 葉の黄化や落葉時期等を観察して収穫時期を計画しましょう

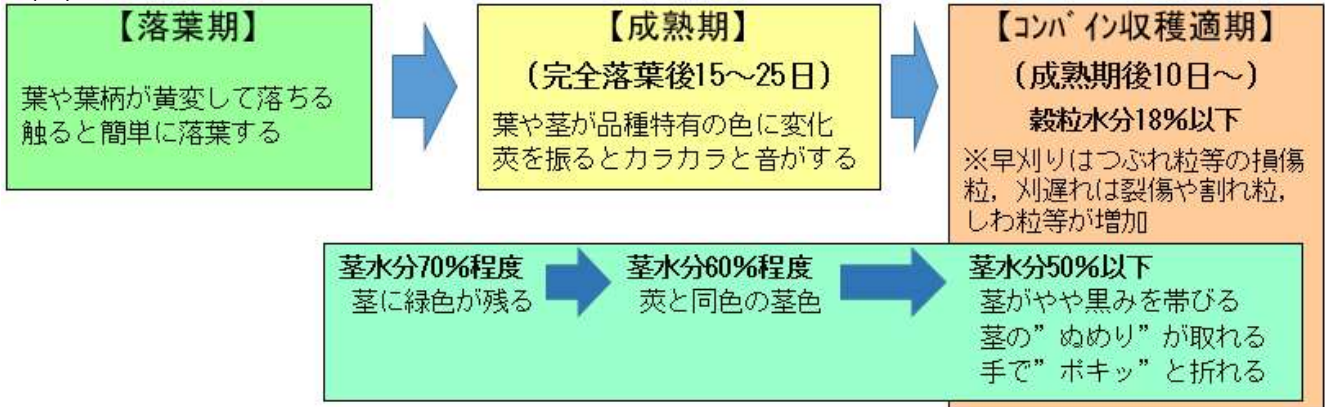


図1 大豆の成熟経過とコンバイン収穫適期

- ・ 収穫適期は成熟期 10 日以降とされており、穀粒水分 18%以下、茎水分 50%以下となった時期です。図 1 を参考に、莢や莢の色、莢を振って子実の音がするなど、総合的に判断しましょう。
- ・ 高水分での刈取はつぶれ豆が発生しやすくなります。収穫前には水分測定を行って作業に入りましょう。

(4) 収穫作業 穀粒損失や損傷・汚粒発生による収量・品質低下を防ぎましょう

- ・ 大豆では「収穫時の穀粒損失」が大きな減収要因となる場合があります。作業開始時や休憩時に収穫状況を確認しましょう。

○刈り残しロス	刈取高さを調整
○頭部損失	リールの位置、速度と作業速度の調整
○後部（排出）ロス	こぎ胴の処理能力と作業速度の調整

- ・ 収穫時の穀粒水分（15～18%）を確認（子実に爪を立てると少し痕が残る）しましょう。
- ・ 「汚粒」発生による品質低下を防ぎましょう。

○土の掻き込み	刈取高さは約 10 cm に調整、安定した収穫のできる運転技術
○雑草や大豆青立ち株	前日までに抜き取り終了
○コンバイン内部の汚れ	収穫前後に掃除、土掻き込み時の速やかな作業停止・掃除
○収穫時刻	莢や莢が乾いている時間帯（11 時～16 時）に収穫

(5) 乾燥作業 子実水分に留意し、高品質な大豆に調製しましょう

- ・ 大豆の乾燥は、初期水分、乾燥速度や温度によって、裂皮粒やしわ粒が生じ、品質低下の要因になる可能性があります。子実水分に留意しましょう。

ポイント

- ・ 送風温度を 30℃以下にする（子実の平均水分が 18%を超えるロットはさらに送風温度を落として乾燥する）。

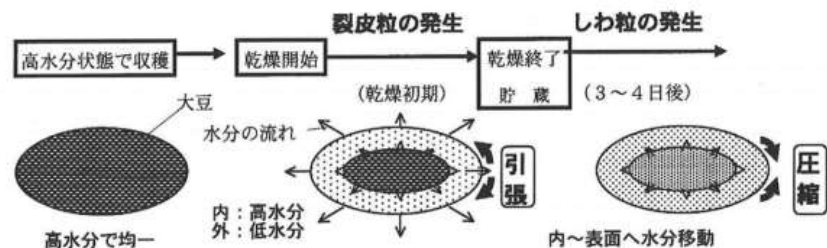


図2 大豆乾燥における被害粒発生機構(みやぎの麦類・大豆栽培技術指導指針 より)

- ・ 送風温度は晴天時には常温乾燥（無加温）とし、雨天や夜間時は常温 + 5℃程度を目安とする。
- ・ 循環式乾燥機の場合、乾燥速度は緩やかに（毎時 0.35%以下）設定する。

農作業安全確認運動展開中！（9月1日～11月30日）

スローガン

「徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策」

シートベルト・ヘルメットの着用を徹底！